

# 東京 陵水

賀正  
平成27年 元旦  
陵水会東京支部役員一同

## あけましておめでとうございます

陵水会 東京支部長 守谷 貞夫

あけましておめでとうございます。程よろしくお願い申し上げます。

昨年母校は九十周年を迎え、陵水会会員諸兄には物心再面にて大変お世話になりました。衷心より感謝致しております。今年も陵水会の諸活動にご協力の



1面	年頭所感(守谷支部長)
1面～5面	二十七年・二十六年総会
5面～9面	記念講演要旨
9面～13面	「こんにちば」
14面～15面	主張
15面～16面	趣味「俳句」「川柳」
17面～18面	OB会クラブ活動
18面～19面	ゴルフ談義
19面～21面	同好会
21面～22面	つどい
23面	会費納入者一覧
24面	広告・奥付

目指してスーパードグロバール (SGU) 大学の選定を行い、二〇一四年九月二十六日、三十七大学が決定した。残念ながら滋賀大は選から外れてしまった。有力国立大学では一橋、神戸、横浜国大が不採択となった。トップ型十三校、グローバルけん引型二十四校で年間各々四・二億円、一・七億円の補助金が一〇年間支給されることとなった。グローバル化は大学改革の最重要課題で採択されればグローバル化戦略で国のお墨付きを得た事となり、以後一〇年間SGU採択校を名乗れるメリットは計り知れない。

その分選に漏れた場合の痛手も大きい。これら背景には毎年発表される世界の大学ランキング (THE) で日本の大学順位は予想外に低く一〇〇位以内は東大 (二三) 京大 (五二) 二校のみで二〇〇位以内では東工大 (二二五) 東北大 (二四四) 阪大 (二五〇) のみである事がある。安倍首相は「大学力は国力ぞ

に全面協力すべく総力を結集し度いと考えている。有り来りの国内でのグローバル人材育成計画では特徴が無く、生き残りは難しいと考え突出度日本一を目指さねばならない。実践英会話力養成は必須事項として、幸いにも滋賀大学経済学部は国立経済学部としては唯一の情報学科を有し「英会話力+ITプログラミング力」に特化

の「二〇二〇年までに日本の大学一〇校を掲げている。以上のスーパードグロバール大学プランとは別に文部科学省は生き残り校選別と特化戦略後押しとして「グローバル人材育成推進事業」を進め、二〇一六年度特別支援四十万円の補助金の支給を計画している。滋賀大学経済学部としては、この案に参画して敗者復活するより道は無いと思われる。未だ殆どの大学が構想提示に留まっているし、海外展開構想も今からと言う、現在が絶好の機会である。陵水会はこの応募

## 平成二十七年支部総会の概要について

●開催日時 平成二十七年七月 四日(土) 午後五時

●会場 上野精養軒(台東区 上野公園四一五八) 前回と同様の開催場所となります。

●記念講演 『高齢化社会における信託活用方法について』 (仮題) 講師 鯖田豊則氏(東京国際大学 学商学部教授 大27回)

今回は東京国際大学で教鞭を執っておられる我が同期の鯖田さんにお願ひすることにいたしました。同氏は大学卒業後、信託銀行、証券会社に勤務、信託業務のプロとして金融業界の最前線で活躍されました。「高齢化社会」といわれて久しい日本において、個人財産の管理方法として十分に受け入れられているとは言えない「信託」についてその特徴・活用方法等につきご紹介いただきます。また滋賀県にも「近江信託」という会社があったことなど信託普及の歴史にも触れていただく予定です。

#### 当番幹事挨拶と

#### 活動状況について

今回は昭和五十四年卒業の大学二十七回が当番幹事を務めさせていただきます。前回に引き続き盛会となるよう精いっぱい努めてまいりますので宜しくお願ひ致します。

大学卒業後三十五年、学生時代に面識のなかった人、卒業後初めて再会する人等がいる中、まずは同期会を結成すべく昨年四月に十二名が日本橋に集まり初顔合わせ、活動を開始致しました。不安いっばいの船出でしたが、前回支部総会の直前準備のお手伝い、総会一次会の運営、

総会終了後の大学二十六回の先輩からの書面による引継ぎを通じてようやくまとまりと盛り上がりを実現することができました。続いて記念講演の講師選定に着手、大学OB、滋賀県ゆかりの方等数人の候補者の中から前述の我が同期鯖田氏にお願いすることに致しました。その他懇親会のプログラム、役割分担等順次具体化しつつ本番に向けていきたいと思います。支部総会につきましても土曜日開催が定着し、参加者もこの数年二〇〇名を超える規模となり、会員交流の場として大きな役割を果たすようになってまいりました。一方で三十〜五〇歳の若手・中堅会員の参加がまだまだ十分とは言えず今後の課題であるとの認識を持っております。我々当番幹事としましては、今までもまして幅広い年代層の皆様にご参加いただき、陵水会活動への関心を高めていただくような幹事活動を展開してまいりたいと思えます。具体的には若手・中堅幹事への声掛けを通じて同期(ヨコ)の皆様への

の情宣・勧誘を強化するとも、従来以上にゼミ、部活動の先輩・後輩への声掛け(タテ)を実施してまいります。四月には総会のご案内状(出欠の返信ハガキ同封)をお届けする予定でございます。会員の

## 進化する総会内容(二十六年)参加者 二〇〇名以上の恒常化と華やかな新企画

朝からの梅雨空が、午後になって回復の兆しを見せた七月五日(土)、午後五時から、平成二十六年度「陵水会東京支部総会・懇親会」が上野精養軒で開催された。

今年も、開催を待ちわびた会員諸氏の出席は早く、受付開始の午後四時前から多数の参加者が来会し、本年幹事担当の大学二十六回諸氏が応対に追われた。本年も、総会参加会員数は二二〇名を突破し、恒常化の歩みを進めた。

今年も、開催を待ちわびた会員諸氏の出席は早く、受付開始の午後四時前から多数の参加者が来会し、本年幹事担当の大学二十六回諸氏が応対に追われた。本年も、総会参加会員数は二二〇名を突破し、恒常化の歩みを進めた。

本年幹事の、開催ポリシーとして全面に打ち出した「お・も・て・な・し」の象徴として、ステージ下手に備えられた野点傘と毛氈椅子の鮮やかな朱色は一廉目をひいた。会場後方にパネル掲示された「高商から大学への歩み」の写真



“乾杯” 戸田理事長



”見よ漫々と”

真も初の試みとして参加者の足を止めていた。会は、定刻五時、第一部司会・小椋清司幹事長(大18)の開会宣言により幕を開け、グリークラブOBメンバーの学歌斉唱が荘重に会場内に流れた。冒頭の守谷貞夫支部長(大12)の挨拶が述べられた。「総会が年々盛会になっていると感じられ非常に嬉しく思う。去年の創立九〇周年記念の募金活動では東京支部のノルマ五〇〇万円のところ一千万の御協力を得た。募金実績が全体で四千万円であり、その五分の一以上を当支部が占め、大学に貢献できた。深くご協力に感謝する。今日の乾杯のウイスキーは戸田理事長のお力添えでサントリから一九九八年物五十四度の樽買いをしたものであり、美味しく飲み楽しんで欲しい。母校は九年後に創立一〇〇周年を控えている。日本経済新聞では長崎大学の関係者が同大学一〇〇周年の事を記事にしている。そこでは記念行事をかなり前から後援会などが準備を進め、盛りたてて一〇〇周年記念行事が成功したと述べられていた。当大学も今から準備しておく必要がある。七月九日にこの件に



【貸方】

前受金 六七五、〇〇〇  
 基本金 一、〇六〇、〇〇〇  
 繰越金 一、三六〇、七九七  
 合計 三、〇九五、七九七  
 ※前受金は翌年度の年会費受入  
 ○収支計算書

【支出の部】

総会費 一、七八四、〇九九  
 運営費(※) 九七、三三〇  
 印刷費 三二一、四五五  
 通信費 四二二、五〇三  
 広報活動費(※) 六二、六一七  
 編集費 一〇〇、〇〇〇  
 事務用品費 六四八  
 交通費(※) 七五、九五〇  
 雑費 四一、四六〇  
 次年度繰越金一、三六〇、七九七  
 計 四、二六六、八五九  
 ※運営費は役員幹事会への若手補助、当番幹事・会議費用一部補助。広報活動費はホームページメンテナンス費・九〇  
 周年行事本部取材経費。交通費は就職相談会へ若手派遣費(本部折半)

雑収入

前年度繰越金一、一八七、〇〇七  
 計 四、二六六、八五九  
 ※年会費納付者四四二人(前期四六〇人)。総会出席者数若干増  
 ○平成二十六年収支予算書

【支出の部】

総会費 二、一五〇、〇〇〇  
 運営費 一〇〇、〇〇〇  
 印刷費 四〇〇、〇〇〇  
 通信費 四五〇、〇〇〇  
 広報活動費 一〇〇、〇〇〇  
 編集費 一〇〇、〇〇〇  
 事務用品費 一〇、〇〇〇  
 交通費 二〇、〇〇〇  
 雑費 五〇、〇〇〇  
 次年度繰越金一、三四八、七九七  
 合計 四、七二八、七九七  
 【収入の部】  
 年会費収入 一、四五〇、〇〇〇  
 総会費収入一、四五〇、〇〇〇  
 寄付金収入 一〇〇、〇〇〇  
 新聞広告収入 二四〇、〇〇〇  
 本部活動助成金収入 一一三、〇〇〇  
 雑収入 五、〇〇〇  
 前年度繰越金一、三六〇、七九七  
 合計 四、七二八、七九七  
 ※交通費は就職相談会への若手OB派遣交通費の来期より本部全額負担へ変更で減額。

私達の出会いと陵水会

湯浅信介(大50)  
 二〇一三年五月、私は同期の誘いで東京陵水会フェイスペインの会に参加しました。錚々たる諸先輩方と笑顔で話している印象に残ったのが妻となった友枝でした。  
 二〇一三年七月、東京支部総会に初出席。多くの偉大な諸先輩方がおられ、私は完全に委縮しておりましたが、支部主催の二次会、非公式の三次会と会を重ねるにつれ次第に楽しくお話が出来るようになりました。その場で彼女とは一言二言交わす程度でしたが(彼女はそのことを記憶していません)、諸先輩の応援やお酒の力もあり【?】、二〇一三年九月交際を始め二〇一四年九月に入籍いたしました。



湯浅ご夫妻

二〇一四年の東京支部総会にて婚約報告の場を設けて戴き、守谷支部長をはじめ諸先輩方に温かいお祝いの言葉を戴きましたことは一生の思い出です。今後夫婦で人生を歩んでいく上で礎となりました。未熟者の二人ですが力を合わせて頑張っていく所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。  
 ★ ★ ★  
 陵水会総会に参加して

高野直樹(大62)

私が陵水会に参加した理由は、この大都会、東京に出てきたばかりで、少しでも力強い知り合いを増やしたかったからです。結果として学生時代に知り合えなかった同級生や、多くの諸先輩方と知り合うことが出来ました。新入社員で右も左も判からな

いまま三カ月が経過し、仕事や将来の不安が日々増していった時にこの陵水会総会に出席いたしました。陵水会総会の中では、そういった新入社員の悩みを、若手の諸先輩方に相談できました。その結果、今後社内ですらしていけばいいのか、どういった思いで仕事をこなして行けばよいかが見えてきました。この東京では、多種多様な多くの人々と出会えますが、やは

相続税対策・申告、贈与税申告のご相談ならば

税理士法人ファースト会計事務所

法人税・所得税(確定申告)・相続税・贈与税

〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-15-401

電話：03-3766-5081 Fax：03-3765-1036 HP：http://www.tax1st.jp/

代表社員：公認会計士・税理士 松澤進 大学38回・平成2年卒

ウインドサーフィン部第6代主将 会計士同好会昭和63年度会長

り同じ彦根の地で学びあった繋がりは非常に大きいです。今後ともこの繋がりを太くし、滋賀大学卒業生として誇りを持って、この日本の中心地で生きていきたいです。

### ★ ★ ★ 総会に出席して

岡山 昌輝(大62)

緊張の中、大学と社会で多くの経験をされた先輩方と御話をしてみました。結果的に、多くの先輩方と大学での話や社会の話などをさせていただきとても良い経験になりました。

私が一番印象に残って居るのは、先輩方から聞く社会の厳しさでした。大学を卒業して、社会で多くの経験を積んだ先輩方からの御言葉は、身にしみるものばかりでした。ある先輩から「社会人と大学生の違い」を聞かれました。私は、責任の重さが大学生より重いものがあると応えました。しかし、先輩の考えは少し異なるものでした。社会人と大学生の違いは、お金を貰って勉強するか、お金を払って勉強するかの違いでした。勉強するという姿は社会人になっても変わらず、お金を貰って社会人は勉強するという学ぶ姿勢と

いう部分で異なってくると感じました。先輩のお言葉を聞いてから、日々の社会人生活に変化が生まれたと実感しています。具体的に、私が会社の業務などを学んでいる時にも、会社のコストがかかっている。そのことを意識するようになり、自然と大学生の時にはあまり感じる事の無かった、責任を持つて積極的に学ぶ姿勢で働いています。

一方で、多くの方から新社会人として、滋賀大学の卒業生として頑張つて社会で活躍して欲しいと声を掛けられたことを嬉しく感じたことを今でも覚えて

います。先輩方も、彦根の地で四年間学んだことが今の社会人生活でも活かされていることが多々あるとおっしゃっています。その言葉を胸に今でも日々生活しています。滋賀大学で学んでいてよかったと思つたことが、研修期間にありました。それはマーケティングや簿記など、大学時代に力を入れて学んでいたことが会社でも活用されていると紹介された時でした。講師から、こんなこと知っている人いるかと声を掛けられた時、自信を持って私は答えました。それによってマーケティングの部署の方ともつながりができ、営

業部署に配属されてからも、何か関わる業務などの時は私に期待してくれたり、優しく教えて下さることがあります。これも、滋賀大学経済学部で勉強をしっかりしたからこそ、このような社会人生活を送ることが出来て

いると感じています。これら社会の厳しさや、彦根の地で滋賀大学で学んだことを良かったと感じることが出来たのも、総会に参加しなかったら

感じ取れなかった事です。社会

### 記念講演

## 「おもてなしの仕組み」

### 京都花街に学ぶマネージメント(要約)

京都女子大 西尾 久美子 教授

人になりたてのこの時期に多くの先輩方に話を伺つたことはとても良い機会でした。総会時に面識もない社会人として間もない私を受け入れてくださり、アドバイスをしてくださった先輩方に感謝いたします。これから長い社会人生活の中で、この経験を初心に返るときにも思い出すと思います。この機会を感じたことを忘れず、社会で滋賀大学の卒業生が活躍している姿を目指して行きます。

プロフィールをご紹介賜りましたように、私は一度普通の一般職OLとして、関西は某ガス会社というところしかありません。勤務をさせていただきました。それからもう一度学びたいという気持ちで、滋賀大学が応えて下さりました。社会人入試という仕組みをお持ちでして、一度

で三百五十年続く、京都花街(かがい)をとりあげて経営の視点で研究をさせていただきました。今日は経営の視点だけではなく、今話題になっております「おもてなし」をちよつと解体するようなお話をつなげさせていた

社会に出た人も広く学びの場に加えましょうという仕組みに入っていたいただいたお蔭でその後、大学で、また大学院で学ばせて

いただきました。それからの地域産業

いところは、伝統産業が厳しいと言われながら若手の人材を継続的に育てていることです。「おもてなし」、これ無形性です。それから提供される時と消費される時が一緒、同時にサービスというのはモノのように事前に形状比較をして、どんなモノであるかということを取り扱うことが、お客様にとつて非常に難しい産業です。こういうところに、今は日本各地から舞妓さんになりたいよ、といてやってくる子がいます。ホームページを見てやってくる子で、北は北海道、南は沖縄まで出身者がいます。お家が困つてなる子は一人もいません。最近の子たちは、組合のホームページを見て憧れてこの業界にやってくる。ですので、全く着物も着られませんが、踊りのお稽古もできません。そんな子達をどういうふうにするかというのを、人材に育てるのかということをご紹介します。

同時に育てるために秘訣になっている、現場で交わされる言葉を明らかにして、皆様方が実際にのお仕事、お商売の中で後輩を育てていただくことの何らかのヒントにしたいだけならば有難く存じます。

早速、京都の花街へと皆様をご案内したいと思います。軒をつらねたような小さなお家から入っているのが、この街の特徴でございます。四条の鴨川の橋の真中に立つてもらいますと、五つある街のうちの四つが、徒歩二十分圏内に入ります。百軒以上、この赤い提灯が下がって、いるようなお茶屋さんが集積して産業が練り広げられています。



ここで働いてはるのが芸妓さんと舞妓さんです。舞妓さんというのは概ね二十歳以下です。中学卒業か、高校卒業ぐらい、若くて元気で素直な子達を迎え入れて、一年位の教育準備期間を経て、舞妓さんとしてデビューさせます。芸妓さんをやっていくのは二十歳か二十一歳位、そのあと芸妓さんにならると、年齢に関係なくずっと現役です。八十を出てはっても十分お仕事をしていた人はきょうさん居やります。芸妓さんたちは

定年がない、そんなお仕事です。このおもてなしの産業は分業によって成り立っています。「お茶屋さん」、東京ではこの事業者がありませんので、東京生粋の経営者の方はもしかしたらご存知ないかもしれません。この「お茶屋さん」は、もてなしのコーディネーターをしてはります。顧客の情報に基づいて、どの芸妓さん、舞妓さんがいいのか、どの料理屋さんでもてなし

か、どの料理屋さんでもてなしたいのか、それを考えるコーディネーター役をされている事業者さんです。これが百軒以上、京都には現在もごいます。お茶屋さんの「お座敷の場所」は、限定されておりません。例えば地方の金融機関、県名や府名がついているような、そういう金融機関が海外の支店オープンの時に舞妓さんをつれていったりします。舞妓さん二人とお茶屋のお母さんを連れてシンガポール支店のオープン、その地の名士が全部やってきます。写真を撮って新聞に広告してく

ります。ドバイの建設会社の支店オープンに行ったという子もおります。インドにまで出張する舞妓まで出てきました。経済産業省のクールジャパンの仕事で行ったそうです。信用のある

お客様からのご紹介であれば世界各国に行く、こういう形になっています。そうすると芸歴の長い芸妓さん必要だし、若くて元気で、一泊三日でスイスに出張行つてきました、ということが出来るような十八歳とか十九歳の舞妓さん必要ということチームを組み立てて、今では仕事をしています。

現在三百人弱、京都には芸妓さんと舞妓さんがいます。マクドナルドが崩壊しても、リーマンショックがあっても人数はほぼ変わっておりません。私が最初に研究を始めた時の東京の六花街の芸者さんの数は現在半分以上になっております。非常に厳しいです。「おもてなし」といわれる産業の中では、多分、京都が世界中で立ち状態です。宴会では立食とか客席のホテルのパーティで、全員中国人、全員ロシア人、こんな宴会に舞妓さん達は平気で行っております。こんな形で市場が広がっている

ので、人数がこの十数年変わっていないという状況です。若い妓を育てるのは大変な組み合わせです。人材育成専門の事業者がいるのです。これを京都

ではやかた（屋形・館）と言います。日本全国の共通語では置屋といえます。舞妓さんになりたいという子も最近はいっぱいいます。中二や中三の夏休みにwebを見てやつて来る娘さんたちを一週間とか十日体験に受け入れて、素養がある、素直で元気や、という子は迎えて来た保護者の面接もして引き受けるのです。保護者面接するのは秘密があります。最近の若い子達、好きなことを見つけたら一生懸命気張りはりますが、お父さんやお母さんが、うちの子は好き嫌いが激しいから、何のテレビはつけてもらわないといけない、スマホは必ず持たせてもらおう、というふうな要求を一方的に、こればかりしてほしいと言わはることは、働くのに向いていません。お客さんの気持ちを取りつてみるのには、そういうことばかり言

わはる親御さんのお嬢さんはちよつと受け入れられませんが、そんなことを確かめて今全国からなりたいたいという人を引き受けていらつしやる事業者が置屋さんです。経営者のことは、この業界で

は「おかささん」といいます。芸妓さんは八十歳にならなくても「おねえさん」といいます。皆様のようなお客さんが来はると、何歳であつても「おにいさん」といいます。これはお客様とのプライバシーと顧客情報を守るためです。お客様の名前を（普通に）呼ぶと、どこで誰に会うてはつたという情報が全部抜けてしまいますので、人に合わせ

て呼び方をちゃんとしていくんです。舞妓さんになりたいと思つて置屋さんやつて来る、一年位住み込みで言葉も教えてもらいます。学校が各街にありますので、踊りや日本舞踊で、流派がいくつもありますので呼び方が違います。それから茶道も必須でございます。最近では、よく日本舞踊が習熟するようにと

いうことで鳴り物、リズム感を持てるように太鼓とか鼓とかお三味線なんかも十五や十六の子に習わせます。一年位の基礎教育期間を経て、日本舞踊のお師匠さんの許可をもらおうとデビューする。デビューしても、現場には一日も行ったことがないの

でOJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）のメンターが付きます。これが「おねえさん」



分とかが負担して教えます。でも現場で出します。現場に出したら、本人が失敗したら、家に報告するのは基本ですが、名前を分けたねえさん方に情報がまわるようにフィードバックがされます。一緒にいた、直接、名前を分けたねえさんがいれば、その子に、あの子歩き方きたないから言うたりやとか言われま

す。今の芸妓はん、舞妓はん、みんなスマートフォン持ってます。具合の悪い情報は一日、いい情報でも、街中三日でまわるといわれるぐらい。

お客の様子を汲み取って、無形性、同時性ですから、必ず改訂していくことが必要になります。今日、お家へ帰って、今日何言われたかということ報告して、忘れても他から入ってきたことを基に直していく。こういうチャート図のような流れを、事業者全部が連携をとってやっていくところがこの産業の強みです。「おもてなし」とは何か、個人のスーパードライバーな人を想像されるかもしれないが、それやったら産業として成り立ちません。

大切なことは、デビューする子に、見たり聞いたり、自分がとれる一次情報をちゃんと汲み取りなさいということ教える、

そしてそれを基に自分の行動、提供する形のないサービスを組み立てる、気配り、推測して行動することです。これを徹底すれば、仕来りに応じた振る舞いができるようになります。

時期に応じてどんなお客さんが来てくれるのか、どういうお料理屋さんで、どんな料理がでるか、京都のお祭りすら、やってきた子たちは知りませんので、気配りしてそれを続ける

と、入ってきた外部の情報を解釈して、心配りができるといって、顧客満足度の高いサービスができる人材になります。

こういう、人を育ててゆくことができないと街が続いていけない。何故かという、お茶屋さんにとつてはお客さんにつながるものが一番大事です。芸妓さん、舞妓さんに出来ないことがあったら、次に来てくれるときにちやう子を取取りします、と言えないといけません。新人の子も一定水準必ずあげてゆく、こういう取引関係で「一見さんお断り」が成り立っています。

## 経営再建コンサルタント協同組合

理事長 長井和男 (大22回)  
公認会計士

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-5-4 共同ビル(八重洲口)505  
TEL 03-5255-3511 FAX 03-5255-3512  
E-mail : nagai@sai-ken.or.jp

は、尊敬されへんな、ということも分かってくるということだと思います。でもこれは最初に謝らへんとわかりません。

最後は「おたのもうします」、

という事です。プロフェッショナルとして必須です。目配りして、気配りして、そして自分が仮説的な行動をします。それに対してお客さんが、合（お）うてるとか、違うとか評価くればらへんと検証できないですよ



ね。踊りを舞うとき、何か芸事をだすとき、宴会に呼んでもうたとき、お辞儀をしたるときと同時に「おたのもうします」というふうに、評価をくださいというつもりで頭を下げるそうです。そういう雰囲気はお客さんにつながりますので、楽しかったねとか、あるいはワシは日本舞踊のことはよう分からへんけど新人の去年の方が、何か一生懸命なことがあったねとか、ちよっとしたことでも評価情報を

もらわへんと自分が伸びていきません。それを誘導するような姿勢の言葉、この三つを陵水会に実践していただきたいと思えます。

人材育成というのは時間がかります。その間の、時間を稼いでいくためには質のいい人になり、定期的に来てもらうことが必要です。儲かったらすぐやめるわという仕組みではないような収益の安定性をつくる、そうするとリピートのお客さんの喜んだはる顔、あ、ちよっと今日は（まづかったかな？）ということも顔色ひとつで分かって、よいサービスをさがしていけるようになります。

そうしたお客さんに紹介をしてもらう、そうすると広告宣伝の費用が減りますよね。紹介者があるということは、信用、これも与信なんですね。もし、新しいお客さんが来て、払（はろ）てくれはらへんかったら紹介者が支払う、それぐらいの気持ちをもってお客さんに紹介します。その代りここでない出来なサービスを必ず提供すると、提供できるクオリティを保つ、それを保つて、それに応じたお客さんをつくっていく。

お客さんは日本人じゃなくて

もかまわれない。わかってくればるのであれば「おもてなし」はノンバーバルコミュニケーションですから、気持ちがいいということを受け取ってくださいる方

## こんにちわ

### 飯塚 浩彦氏（大29回）

（いづか ひろひこ）

株式会社産業経済新聞社（産経新聞）常務取締役を、去る九月一九日（金）大手町の東京本社を訪問しお話を伺いました。多くのお話しをいただきましたが、紙幅上少なからず割愛した部分があることを了承下さい。

——本日はお忙しいところ、ありがとうございます。さつきから少し関西言葉のイントネーションが懐かしかったのですが、ご出身は？

飯塚 はい、兵庫県の旧揖保郡です。龍野高校出身で、一年京都で浪人して、遅れて大学へ入りました。

——当時は何人位でしたか？

飯塚 当時はもう四〇〇人に近かったのではないかと思います。——学科もだいぶ増えていたんじゃないですか？

飯塚 はい、私は管理科学科です。多分、先輩方の頃にはなかったと思うんですけども、経

なら世界中どこでもかまへんと、こういう仕組みになっていきます。質と競争力を保つためのキーポイントということで、お話をまとめさせていただきます。

済、経営のほか、管理科学科、会計学があります。管理科学というのはコンピュータとか経営管理なんかもやると思うんですが、あまり勉強しなかったのですが、あまり分らないんです。電子計算機総論とかがありましたですね。そういうのが丁度ハシリの頃で面白いかなと思って入ったんですけど、ついて行けませんでした。必須科目だけ押さえたら一応その卒業にしてくれそうです管理科学科卒業、ということになっていきますが何にも分かりません（笑）。

——学生時代はどうでしたか、結構楽しく過ごされましたですか？

飯塚 僕は落語研究会でした。僕らが一回生に入った時に入れ替わりで卒業された先輩たちが落語研究会の最後の方々だったんです。誰も居らんようになってしまえば先輩なしでもう一度、一から作り直しました。先輩方の時はクラブでしたが、僕らは同好会へ格下げで、五人ほ

どで始めたんです。——いわゆる落研（おちけん）というものですね？

飯塚 はい、彦根は名古屋と京都の間ということで、名古屋は関西弁ではない。で、愛知県と岐阜県出身の同級生は江戸落語をやって、僕と京都と近江八幡出身の三人が上方落語をやりました。喋り方が全然違うんですね。こういうのをちよつとやっていたら、今度は大学祭の実行委員会に誰か出て来いというこ



とになった。これが面白くて、結局落語研究会はほつたらかして大学祭の実行委員ばかりやっていました。これは面白かったです。桂枝雀さんと呼んだり、桂米朝さんと呼んだり。大学のあの講堂へですね。二回生の時に枝雀さんと呼んで、三回生の時に米朝さんだっと思えます。枝雀さんが全盛期で、四回生の時にもう一回呼びました。

本当に面白かったです。そんなことから、こういうことが大好

きになってしまいました。

——それは楽しいですね。交渉をやる訳でしょう、タレントとの

**飯塚** そうです。大阪の桂米朝

事務所へ行つて交渉しましたね。学生ですからソコ頼みますわ、

とか泣き言を言つて安くしてもらつたり、近江商人の、士魂商

才で…。本当に面白かつたです。そのイベント好きが高じて、

TV出演にもいろいろチャレンジしました。

——TV出演をしたんですか？

**飯塚** はい、当時は「プロボーズ大作戦」や「パンチDEデート」といった視聴者参加番組が花盛りでした。ご存知かどうか分かりませんが、「ラブ・アタック！」という番組がありました。

上岡龍太郎さんが司会です。かぐや姫の女の子の下で男どもが、

第一部では木を切つたり早食い競争したりして一番になったら、

かぐや姫にアタックする権利、チャンスがあるんです。第二部

はまた違うメンバーでやる訳ですけど、歌つたり自己PRをし

たりするんです。それに出演でした。関西テレビの「恋のトリ

プルチャンス」にも出ましたね。

「パネルクイズアタック25」あ

れにも出ました。児玉清さんが

司会で、「アタックチャンス！」

とやるやつです。番組がスタートしてまだ一、二年目だったと

思います。

——あれはしかし相当知識がないと：

**飯塚** はい、予選会があつてクイズの質問に答えるんです。二

十問の設問があつて十四問以上答えないと予選を通過できない

んです。なかなか難しいんですよ。十五問解けて本番出してもらつ

たんです。ところが本番では、

おつちよこちよいですからボタンを押しまくつたんです。私、

緑色のパネルだったんですけど、最初の二問目を正解して、二問

目を誰かにとられて、三問目まで正解して、ボードのパネルは

緑・緑・緑…。25のうち、最初に三枚が全部緑になって、内心

「これでもうヨーロッパへ行けるな」と思つていたんですよ(笑)。

ところが、途中で二回お手付き。当時は一度立つと三問ご辛抱だ

つたんです。二回立つたから六問答えられない、全部で九問も

答えたんですが、二問間違えたおかげで終わつてみたらビリで

すわ。緑のパネルは三枚しか残つてない(笑)。

——しかし楽しい学生生活です

ね

**飯塚** ええ、面白かつたですよ。そんなことして遊んでました。

その流れの中で、本当はテレビ局へ行きたかつたんです。それ

でテレビ局をいろいろ受けたんですけど、今から考えるとなか

なか厳しかつた、入れてもらえなかつたんですよ。その時に同

じマスコミやからと、新聞社も受けたんですよ。産経新聞社も。

ここも変な会社なんですよ。



——いやいやいや：

**飯塚** 地域会社に分けていまし

てね、兵庫サンケイ新聞社、神戸サンケイ新聞社、京都サンケ

イ新聞社とか地域ごとに分けて

いるんですよ。兵庫サンケイは姫路なんですよ。ちようどエエわ、

コレ受けよ、長男やし、実家で田んぼしながら記者できるし：

(笑)。で、受けたら、運良くか悪くかしらないけれど通つちゃ

「飯塚君、君は和歌山支局へ行つてもらおう」と言われたんですよ。「えっ？ いや僕は兵庫サンケイ受けたんですよ」と言つたら、「表向きは地域会社採用の形にしているけど、産経新聞社という採用を今はやっていないのでそういう格好にしているだけ。配属はコッチで決めるから」と言われて…。大阪本社で同期七人が内定をもらつてその場で誓約書にハン押ししていると

任しても買うお金がありません。すると、先輩が救いの手を差し伸べてくれました。当時、給料が十一万円くらいでした。六万円余りのキャンオンA E-1というカメラを先輩が「これ、オレが立て替えて買ってやるから、三ヶ月間二万円ずつオレに払え」という訳ですよ。ありがたかつたです。ただし、そんな甘い言葉には裏がありました。「その代わり二万円払うとシンドイやるから、お前はこれからココに住め」と…。会社の宿直室ですわ。新聞社ですから、毎日誰か交代で泊まり勤務をしています。そこに泊まれという訳です。ポストンバッグひとつ持つて和歌山へ行つたんですけど、その日からそこへ住み込みですわ(笑)。今だったらブラック企業ですよ。狭い宿直室にベッドが二つあつて、本来の泊り勤務の先輩と、それから毎日同宿です。ボクはこういう性格ですから、まあエエわと思つて、風呂だけ銭湯へ行つて、宿直室で寝泊まりしてました。支局長は八日に一度くらい宿直勤務をするんです。みんな新人の僕をかわいがつてくれました。毎朝、朝食は近くの喫茶店にモーニングセットの出前を頼むんです。その

時に、いつもおごってもらえる  
んですよ。「朝食代が浮くし、  
これはエエな」と内心思っ  
て、三ヶ月が過ぎてもしほらく住  
んでいました。そしたらしまい  
先輩たちが「お前、いつまで  
ココにおるねん？ 早よ出て行  
けー」って追い出されてしま  
いました。十一月になっていま  
した。(笑)。

——じゅうぶんカメラ代はま  
したね

**飯塚** はい。それに、良かった  
のはやつぱり厳しい先輩がいて、  
警察関係の夜回り取材を毎日  
せられたことでした。和歌山に  
届く新聞の締切時間は夜十一  
時半頃なんです。それまでに起  
きた事件や事故のニュースは  
できる限り入れるようにしま  
す。夜

支局で待機して、定時になっ  
たら警察へ電話を入れて、事  
件や事故が起きていないか  
取材をしています。何もな  
ければ、ゆっくりテレビを見  
たりしているのですが、僕も  
一緒にテレビなんか見ていた  
ら、「何してんねん お前！こ  
んなとこに居ても仕事にな  
らんやろ。外回って来ん  
さい！」と毎日支局から追  
い出されました。締め切り  
時間の夜十一時半頃までは、  
支局には帰

れないんですよ。自分が寝  
るころは支局なのに。(笑)。  
——和歌山の後、支局もい  
ろいろ回られて？

**飯塚** 和歌山が三年半、その  
後大阪本社の社会部へ行き  
ました。そこで大阪府警とか  
大阪府庁、大阪空港とかを  
担当しながら十年ほどいま  
した。その後京都支局のデ  
スク(次長)で、また大阪  
社会部のデスクに戻り、一  
九九年に広島支局長に行  
ったんです。ここで一年や  
って、また大阪へ戻って秘  
書室へ行かされたんです。  
大阪本社代表の専務の秘  
書を二年やりました。その  
当時の大阪代表だった方  
が前の社長でした。「お前  
もいつぱい東京勤務をせ  
なアカンぞ」と言われ、「社  
会部は大阪で十年もやって、  
事件・事故の取材は十分  
させてもらったから他の  
ところをさせて貰いたいで  
すね、政治部とか面白そう  
ですね。ただ外信部、国際  
取材ですね、これは勘弁し  
て下さい、英語で言えな  
いから、「お前が英語がで  
きなものはよく分かった  
よ、この二年間で」と笑  
われ、フタ開けたら経済  
部へ放り込まれたんですよ。  
「お前、経済学部やっ  
たやろ？」って。で、経済  
部のデスクの感覚が……

スクですわ。京都支局や大阪  
社会部でデスクをやって若  
い記者に「どんな記事書い  
てんねん、ボケ！」とか偉  
そうにやっていますが、経  
済部に来たら要領を得ませ  
ん。全然分かりません、  
経済部のデスクの感覚が……  
——ウーン



**飯塚** 当時、竹中平蔵さんが  
金融担当大臣をやっていま  
した、小泉政権だったんで  
すね。経済部のデスクは、  
現場から送ってくる記事  
をチェックするんです。そ  
の前に午後三時頃になっ  
たら、出先の記者に朝刊  
用の出稿の予定を尋ねる  
んです。財務省や金融庁、  
日銀、証券、流通などの  
現場の担当記者に「き  
ょうは何かあるか？」と  
て。まだミクロ経済の方  
は何か理解できそうですが、  
マクロ経済の方は全然わ  
かりません。国際経済とか、  
GDPとかドル高円安とか……  
社会部出身には理解不

能。学生時代彦根でもと  
勉強しておくといい。(笑)。  
現場の記者から、「竹中  
金融大臣がこんなことを  
言ってます」「オッ、そ  
れは一面に入れたらエエ  
んか？」「いや、一面は  
要らないと思いますよ」  
「それじゃ二面か、三  
面か？」「いや、経済  
面の三段見出しくらい  
でええん」と現場の記  
者との珍問答です。情  
けない話です。経済部  
には五人のデスクが  
いました。素人の僕が  
一番古株でした。その  
古株のデスクがこんな  
調子で「デスクは帰  
れへんのですわ、ど  
んな紙面を作るのか  
心配です。(笑)」。周  
りのみんなに助け  
てもらいながら経済  
部のデスクを、なん  
とか二年やること  
ができました。その  
後、大阪に戻って  
社会部長です。社  
会部長の時に一番  
大きかったのは  
尼崎のJR福知山  
線脱線事故です  
ね。福知山線  
で脱線事故とい  
う一報を聞い  
ても、イメージ  
がわかなか  
った。ところが、ど  
こかのテレビ  
で、ヘリコプ  
ターからの  
現場映像が  
出て、大騒  
ぎになった。  
夕刊の作業  
をしていた  
んですが、「こ  
りゃアカン」と  
いうこと  
になり、号  
外づくりに  
切り替え  
ました。

あとは大騒ぎ……。それから、  
大阪の編集局長をやっていた  
時に起きたのが東日本大震  
災でした。大阪からも記者  
やカメラマンを現地へ向  
かわせ、東京本社の支  
援をしていただけで、その  
さなかに社長から「異動  
の内示をするから東京本  
社に出てください」と言  
われ、震災一週間後の  
三月十八日に東京に出  
て行きました。街の電  
灯が消え、コンビニの  
棚もガラガラ、何もな  
かつたですわ。で、社  
長室へ入ると社長から  
言われたのは四月一日  
付で東京本社の編集  
局長。「えっ？ こんな  
時期にやりまっ  
たか？」と思わず言  
ってしまいました。その  
社長は僕が大阪で秘  
書をやっていた時の  
大阪代表でした。「こ  
の時期だからやる  
んだ。四月一日から  
お前、こっちで勤  
務や！」と……。み  
んな東電福島原  
発事故での放射能  
を気にして関西へ  
逃げようという  
ような人も多  
かったころ  
です。この時期  
に東京？ エラ  
いことにな  
った。なーとい  
うのが実感  
でした。で、  
東京の編集  
局長を二年  
やって、去  
年の六月の  
役員改選に  
あわせて編  
集・論説担  
当ということ  
になりました。  
正直に言っ  
て、僕は  
大阪の社会  
部育ちです  
から、政治  
や外交とい  
った難しい  
話、

専門的な話によく分かりませんが、担当には「任せるわ、結果責任はオレが取るから思い切つてやれ」つて言うてます(笑)。

——若い頃からずーっとこの報道関係で、一番苦労されるとい

る大きな事件で「容疑者、きょうにも逮捕へ」というのを他紙にドカンと書かれていたらアウトです。「こんなん載ってるゾ」と叩き起こされ、朝イチでその記事の事実確認をしなければならぬわけです。事実なら夕刊に送らなアカン、今だったらインターネットのニュース用にも

つと早く送らなアカンから…。

ンビニで、届いたばかりの他紙を買って読みながら捜査員の家へ行くんです。「この記事、ど

うちの社では僕にあたるんですね、編集担当ですから。解職はやむを得ない、明日は我が身やなど思いながら、ネットで生中継されていたあの記者会見を見ていました。うちの記者連中は中継を見ながら「突っ込みが甘いぞ!」とか言っていました。僕は逆に、会見している編集担当の立場で、今の答えはま

飯塚 まあ一言で言うのは難しいですけど、新聞記者であることそのものが苦労なんですけどね。皆さんご存知ないと思いますが、実は夜中の三時に各新聞社がその日の朝刊を交換してくるんですよ。締切が大体一時半なんです、夜中の…。一時半に最終締切があつて、その日の仕事はとりあえず終わり。印刷を始めますね、その新聞の刷り上がりを各社で交換するんです。ウチの新聞、今日はこんな新聞です、と。もう、締め切り時間は過ぎていきますので、その時間からカンニングして記事

これは、なかなか辛いですよ。記者クラブの中でいつも仲良くしている他紙の記者に抜かれてそれを追いかけるのも辛いですけど、あした休みやと思つて寝たところを夜中三時に起こされて、それを追いかけるわけにはならないのもつらいです。未明からクソ一っと思ひながら、手配した車に乗りこんで、途中のコ

わつてしまうと、病み付きになつてしまうんですよ、記者はみんな。まあ、ゲームみたいな感覚でしょう。また、特ダネ書いた時は、別のしんどさもあります。自信をもって特ダネを書いているわけですが、発表があつたわけではないので、内心、不安もあるんですよ、間違つていたらどうしようって…。このスリルが面白いんでしょうかね、この仕事は。こんなことして

はうちの社では僕にあたるんですね、編集担当ですから。解職はやむを得ない、明日は我が身やなど思いながら、ネットで生中継されていたあの記者会見を見ていました。うちの記者連中は中継を見ながら「突っ込みが甘いぞ!」とか言っていました。僕は逆に、会見している編集担当の立場で、今の答えはま



を載せようとしても無理。夜中の三時の各紙交換からが大変なんです。それぞれいろんなニュースを載せてますが、特ダネをボーンと書かれていたりしたら、「抜かれた!」となる訳です。その担当記者は夜中の三時に叩き起こされることになるんです。例えば、僕だったら事件取材をやっていたから、注目されてい

る大きな事件で「容疑者、きょうにも逮捕へ」というのを他紙にドカンと書かれていたらアウトです。「こんなん載ってるゾ」と叩き起こされ、朝イチでその記事の事実確認をしなければならぬわけです。事実なら夕刊に送らなアカン、今だったらインターネットのニュース用にも

わつてしまうと、病み付きになつてしまうんですよ、記者はみんな。まあ、ゲームみたいな感覚でしょう。また、特ダネ書いた時は、別のしんどさもあります。自信をもって特ダネを書いているわけですが、発表があつたわけではないので、内心、不安もあるんですよ、間違つていたらどうしようって…。このスリルが面白いんでしょうかね、この仕事は。こんなことして

はうちの社では僕にあたるんですね、編集担当ですから。解職はやむを得ない、明日は我が身やなど思いながら、ネットで生中継されていたあの記者会見を見ていました。うちの記者連中は中継を見ながら「突っ込みが甘いぞ!」とか言っていました。僕は逆に、会見している編集担当の立場で、今の答えはま

飯塚 まあ一言で言うのは難しいんですけど、新聞記者であることそのものが苦労なんですけどね。皆さんご存知ないと思いますが、実は夜中の三時に各新聞社がその日の朝刊を交換してくるんですよ。締切が大体一時半なんです、夜中の…。一時半に最終締切があつて、その日の仕事はとりあえず終わり。印刷を始めますね、その新聞の刷り上がりを各社で交換するんです。ウチの新聞、今日はこんな新聞です、と。もう、締め切り時間は過ぎていきますので、その時間からカンニングして記事

これは、なかなか辛いですよ。記者クラブの中でいつも仲良くしている他紙の記者に抜かれてそれを追いかけるのも辛いですけど、あした休みやと思つて寝たところを夜中三時に起こされて、それを追いかけるわけにはならないのもつらいです。未明からクソ一っと思ひながら、手配した車に乗りこんで、途中のコ

わつてしまうと、病み付きになつてしまうんですよ、記者はみんな。まあ、ゲームみたいな感覚でしょう。また、特ダネ書いた時は、別のしんどさもあります。自信をもって特ダネを書いているわけですが、発表があつたわけではないので、内心、不安もあるんですよ、間違つていたらどうしようって…。このスリルが面白いんでしょうかね、この仕事は。こんなことして

はうちの社では僕にあたるんですね、編集担当ですから。解職はやむを得ない、明日は我が身やなど思いながら、ネットで生中継されていたあの記者会見を見ていました。うちの記者連中は中継を見ながら「突っ込みが甘いぞ!」とか言っていました。僕は逆に、会見している編集担当の立場で、今の答えはま



ご宴会・ご婚礼・出張料理  
カフェランランドーレ・グリルフクシマ

**五野精養軒**

〒110-8715 東京都台東区上野公園 4番58号  
TEL 03-3821-2181(代) FAX 03-3822-1330  
<http://www.seiyoken.co.jp> 年未年始以外年中無休



その島の中で語り継がれて日本人を許してくれませんか。ところが島中探してもそんな話をだれも聞いたことがない。だからこういうのはあり得ない、と。それを雑誌「正論」と産経新聞で指摘して、これはおかしいんじゃないかと伝えたいですね。そこから議論がいろいろ出て来て、どうなんだ？強制連行があったのか、どうなのかというところで、今に至っています。朝日



さんは、途中から強制連行といふことはあまり言わなくなつて、自由を束縛されていたんだから強制性はあったんだとか、女性の人権の問題だと話をすり替えようとしているところもありましたね。それでいろいろところで批判を浴びていました。今年の八月五日、六日に紙面で特集を組んで検証記事を載せ、そこで「吉田証言は信用できない」という結論に至ったと、過去に

掲載した十六本の記事を取り消しましたね。しかし謝罪がなかった、と言ってまた燃えあがってしまった。そうこうしている時に八月十八日に今度は、東電の「吉田調書」について朝日新聞が五月に掲載した記事は違ふよと産経が紙面で指摘したんです。朝日さんは五月に調書を独占入手して、九割の所員が所長命令に違反して逃げ出したとの記事をドーンと書いた。一瞬、やられたあ、と思いましたがね。けれど、関係者の取材をするとどうも違ふ。にもかかわらず朝日さんの記事が海外へ転電されて、韓国のセウォル号事件の船長と同じだという風に書かれたりして貶められ、日本への信頼は一体何だったんだというような感じで広がってしまった。遅ればせながら産経が「吉田調書」を入手したのは七月末なんですけど、何度読んでも朝日新聞の書いた記事のようなことは書かれていないですよ。事実と違ふのじゃないか？吉田昌郎・元福島第一原発所長が退避命令を出して、それが言葉の行き違いで所員が第二原発まで勝手に行っちゃったけれど、それは所長命令に違反して撤退した訳じゃない。吉田所長も第二原発ま

で退避したことについて、それはそれでよかったと認めているんですよ。そこで、産経は朝日とは全く反対の記事を書いたわけです。いったいどっちが正しいんだということになりました。すると間もなく読売新聞や共同通信なども調書を手に入れました。そして、産経と同じスタンスで朝日さんの記事のようなことはなかったと書いたんですよ。それで、九月十一日の社長のお詫び会見ということになったんです。朝日新聞は僕も学生時代、ずっととってました。クオリイティパーパーといわれ、日本で一番信頼できる新聞だと僕自身も当時は思っていたんです。外国でもおそらくそう思われているでしょう。だから、間違つた記事でも海外のメディアに転電されるんですよ。「吉田証言」も「吉田調書」もたまたま産経新聞が問題を指摘したんですけど、うちは朝日批判のために記事を書いているわけではな

いんですよ。あくまで「事実」を追求していこうと。「明日は我が身」にならないようにしなければとつくづく思っています。今回の問題で、メディアのあり方とか危機管理のあり方とかをいろいろ考えさせられました。——今度の朝日の問題をみても、おっしゃる通り報道の難しさというか色々あるなと思いますね。飯塚 新聞社にはそれぞれ主張があります。たとえば朝日さんだったら反原発、それはそれで僕はいいいと思うんです。産経新聞は、今、原発を止めたら日本経済はダメージが大きいから世界最強の安全策をとった上で原発再稼働をやるべきだというのがスタンスなんですけどね。スタンスはそれぞれがあつていいと思うんですが、「事実」をそれに寄せようとするとやっぱり無理が出ます。事実を捻じ曲げてしまつてはダメです。事実が事実として伝えなきゃならないというところは、編集局の部長会でも口を酸っぱくして言っています。

——報道の厳しさがそこらへんにあるんですね。我々読者も紙面を受けてアーと思つたりするんですけど、そこから世論が形成されるとしたら非常に大変です。飯塚 大変です。朝日は我々以上に海外への発信力がありますし、やっぱり日本国内のウエイトからいってたら部数は読売が一番といつても、朝日の方が信用、信頼性は高かつたと思います。僕が言うのも変な話なんですけど、その朝日さんがああいうことになつたから、朝日新聞だけの問題じゃなくて、あの朝日ですらこれやからということでも新聞の信頼そのものが揺らいでしまふんじゃないかな、と非常に懸念しています。そんなこと思っているこの頃なんです。——今日はお忙しいところ貴重なお話をありがとうございます。

### 「東京陵水」紙のバックナンバーについて

本紙第百号で、その当時まで保存していた「東京陵水」バックナンバーにより百号までの経過を回顧した。その後バックナンバーに相当の不足があり、第一号の発行が何時だったのかということも明確に出来なかつた。

そこで提供を呼びかけたところ幸いにして創刊号が昨年度提供され、本紙の誕生日が明確となった。

平成二十六年十一月に東京支部高木早苗氏（本24）により数字のご提供をいただいた。未だ確保されていない号は8・9・11・12・13・18・21・23・46・47・48・56・71号である。更なるご協力を願いたい。

# 大学という空間の変貌

一橋大学名誉教授

伊豫谷 登士翁（大19）

一

どの世代にとっても彦根で過ごした時期は忘れ難いであろう。わたしが過ごした一九六〇年代末から七十年代初めは時代の大きな転換点であり、その後およそ半世紀近く、大学という場で抱え込んできたテーマは、その「転換」と向き合うことであつたように思う。高度経済成長が終わりを迎え、個人主義が学生の中にも浸透してきていた。戦後体制と言われてきたものが揺らいだ六十年代末が、日本だけでなく、世界的にも転換期であつたことは、広く知られている。しかし、いまだから言えることであるが、それはたんにいわゆる戦後体制だけではなく、近代と呼ばれた時代にとって大きな転換期であつた。

りもヨーロッパ中心世界の転換であつた。同じく歴史家のホブズボウムは、二〇世紀を「極端な時代」と名付け、人類史上最悪の二度の世界戦争を含めた大量殺戮と未曾有の豊かさを実現した「黄金の六十年代」の、表面上は対照的な二つの出来事によつて特徴づけられる時代であり、この二つの大きな出来事がグローバル化といわれるその後の世界を形作ったと言ふ。ここで言うグローバル化とは、たんに国境を越える経済や政治あるいは社会的な活動の拡大だけを指すのではなく、人々の価値観や規範、さらには知の枠組みの転換を含んでいる。

あれからほぼ半世紀、大学も大きな転換点を迎えている。グローバルゼーションというさまざまな軸線がひかれる問題系の出現によつて、大学の存在を支えてきた基盤が大きく変化してきているからでもある。これまでも大学は時代の要請に応じて変貌を遂げてきた。いま大学に求められているのはグローバル化に対応した人材の育成であり、さまざまなランキングが大学を脅かしている。大学はグローバル戦略で生き残るのか、それともローカル戦略かの選択に迫ら

れているかのようでもある。しかし近代が問い直されているいま、グローバルカルカという問題の立て方そのものが間違ひなのである。

大学という空間、そこで研究したり学んだりすること、すなわち大学という制度の中の知のあり方が劇的に変化している。大学は、海外との競争に晒されるが、企業と同じような収益や効率で計り得るものではなく、抱える課題は複雑かつ深刻である。これは、少子化などによる大学人口の減少や大学のいくつかが消滅するといった問題ではない。いまは想像できないかもしれないが、大学という制度や形すら無くなるかもしれない。そういう危惧感を、大学という場にいる多くの人たちは抱いている。

二 グローバリゼーションという研究領域は、国家という境界のなかで解決しえない課題に取り組みうとしていく。国境を越えた標準化は、経済だけでなく、法や政治、さらには家族制度を含めた社会にまで及んでいる。経済活動は言うに及ばず、各国の国内の法は、人権や環境とい

った国際的なレジームに従わなければならない。会計制度は、国際会計基準の時代である。文化や社会が直面する課題は、政治や経済と絡まり、グローバル化している。しかし、大学の制度の多くは、総力戦といわれた時代に専門分野に分化し、体系化され、制度化されたものを引き継いできた。すべての資源を戦争へと動員する総力戦期に、大学も国家的な要請にしたがつて、プロジェクト的な研究体制を整備し、また官僚や技術者、管理者などを育成する制度を作り出した。各学部の中の専門分野は、そうした要請に応えたものであつた。大学は、高度にシステム化した社会を政策的に動かす知の体系を作り出してきたのであり、暗黙のうちに前提としてきたのは、ナショナルな境界であり、関心であつた。

するには、これまでの自然科学と社会／人文科学といった分類、経済学や法学といった個々の学問分野を越えた研究体制、そして大学におけるカリキュラムが必要であり、既存の学問分野を組みかえなければならぬであろう。

これまでも新しい課題に無関心であつたわけではなく、さまざまな学問分野では、グローバル化によつて引き起こされてきた諸課題に取り組んできた。大学の教育にとつての課題は、個々の分野で一つひとつ丹念に取り上げられてきた研究をワンストップで学びうるような制度かもしれない。一時期流行した学際的学部やいま群生しつつあるグローバルを冠した学部は、果たしてこうした課題に答え得たのだろうか。これらは、もと

も、従来の学問分野のたんなる寄せ集めではなく、新たな課題を担う領域として生まれ、長期的な視野で構想することが求められるはずである。さらに根底にある課題としては、ナショナルな分析単位を前提としてきた学問、方法的なナショナルな学問、方法的なナショナルな学問を越える学的関心に挑むことであろう。

研究者の中には、こうした課

研究の中には、こうした課

## 川柳を楽しむもう

野 沢 修 (短8)

題を抱え込んでいる人たちは多い。海外で最先端の研究に取り組んでいる日本人研究者も多い。野心的なテーマに挑んでいる若手の研究者も、次々と台頭してきている。ただ、いまの日本の大学という制度では、そうした人たちが掬い取るような回路は、残念ながら限られている。このままでは、メジャーリーグが日本のプロ野球球団を二軍化してきているように、日本のいわゆる有力大学は、アイビーリーグなどの英米有力大学の予備校化しつつあり、さらにその裾野に、これまで以上に序列化された大学が取り残されることになる。

いま、大学の制度改革のキーワードは、グローバル人材の育成である。グローバルあるいはそれに類する語を掲げる大学や学部はゆうに百を越えている。しかし流行としてのグローバル人材の育成事業から、次代を担う人材が育つであろうか。経済学も、いまでは世界のどこにおいても同じマニュアル化されたカリキュラムで教育されるようになってきている。世界に通用する共通した言語や枠組みは必要である。しかし現状では、各大学の特色は失われて、ミニチュア化するのではないか。

川柳は、にやつとさせるような皮肉で世相を切った俳句のよなものと考えられているようです。間違いはありませんが、もっとお洒落で、じーんと胸に響く五七五、十七音字の短詩です。NHK学園の通信講座で大木俊秀氏は、川柳とはズバリ斬る、ホロリ泣かせる、チクリ刺す、ニンマリ笑う、ポンと膝打つと言われていますが、そういうものでしょう。

川柳は自由に詠み、俳句のように季語や切れ字は要りません。初心者でも気軽に詠めるのが川柳です。俳句が主として「自然」を詠むのに対して、川柳は「人間」の哀歓」を普段使っている口語で詠んでいきます。

私は毎週、新聞で俳句や短歌の欄を楽しんでいます。俳句が川柳ぼくなつた、また川柳が俳句ぼくなつた、つまり垣根が無くなつたと感じています。もともと同根の文芸ですから当たり前ともいえます。よく例に挙げられる俳句に  
あさがおに釣瓶とられて  
もらい水 (加賀千代女)

これなどはレッキとした川柳ですね。私の入会している川柳句会では投句者を入れ、約一三〇名が三句ずつ投句します。四〇〇句近い句から五〇〇六〇句しか抜かれませんが(選者に選ばれること)。私のレベルでは全没などという憂き目に会う日もありますが、大いに楽しんでいきます。

### ○川柳作品

パソコン教室

幼児のような○が描け

白蒸二つお尻見せ

ふる里の

バツジのような吊るし柿 (故郷)

とりあえず

ビールが夏の合言葉 (共通)

酸欠の

財布に慈雨の年金日 (空気)

阪神に

似ているような稀勢の里

伝統校

校歌晩翠七五調 (エリート)

故人には

寂しかりうな家族葬 (扱う)

百までは

お惚気言える脳である

愛妻を  
孫に取られて冬の床  
隙間から  
不機嫌そうなおアチエン (隙間)  
白線から  
出ないあなたが焦れたい  
(焦れる)  
汗臭い  
今日をお酒が拭つてる  
真っ直ぐに  
生きる曲がれば転びそう  
(ビジョン)  
人間の  
エゴに冷遇されるエゴ  
羊羹を  
味わいながら聞く小言  
(スイーツ)  
九回の  
二死満塁で立つ打席  
(ドキドキ)  
「か」で逃げて  
話題を煽るスポーツ紙  
入れた分  
よりなぜか出ていく財布  
(つじつま)  
錠剤が  
スツと通らぬ歳となり  
(いよいよ)  
握手した  
手のぬくもりに騙される  
(油断)  
友だちと  
比べなければママが好き

## 私の俳句と彦根

渡 邊 貞 二 (大1)

母校の経済学部創立九十周年事業の一環として、昨年末、陵水会が発行した「わが青春の彦根」を読むと、そこにはそれぞれの同窓生の彦根での青春があった。

私は定年になってから俳句を始めたが、余韻の深い文章を書きたいという思いからで、それには世界一文字の少ない詩型である俳句の勉強に限ると、少しよこしまな心からである。

その源となる文学を志したのは彦根の学生時代、詩人でもあった英語の杉本教授に師事を受けて、文学サークルで小説の真似事を書いていた。当時は滋賀県の五箇荘出身の外村繁氏の芥川賞受賞が仲間話題になり、滋賀県にも文学賞が出来、その第一回受賞者が京大生の「朝鮮海峡」という作品で、それに大いに触発され志を昂ぶられたものであった。

当時のサークル活動は、芹川河畔の晒山にあった杉本教授宅。先生の奥さんは、元ミス京城(ソ

ウル)とかの綺麗な人で、泉鏡花を愛読され、文学にも造詣の深い人であった。先生の宅には、詩人である市内の寺院和尚や若き新聞記者、それに母校の教授や事務の方が多く来訪され、学内でお目にかかるのは別の顔と接することが出来て、来訪者の文学に対する論説にも感動させられたものである。

また、彦根城の天守閣裏に茶店があり、高校生のお嬢さんとそのお姉さんがよく店を手伝いに来ていて、私達とカラムをしたりして仲良くなり、サークルの会合にその座敷を貸してくれた。また、中央公園にあった市の施設、その初老の管理人は、我々学生にはとても親切で、特別に部屋を貸して呉れ、私たちの活動にも参加することがあった。借り賃は安く管理人は親切なので、ゼミのコンパ等にも何度も利用したことがある。しかし、七、八人のグループは仲が良すぎ輪を広げることにより努力せず、後輩や他のメンバーを加えての活動はそう多くなかった。

含めて将来、その道に進もうとする人は誰もいなかった。考えてみれば、このサークル文学に名を借りた遊び仲間ではなかったのかと振り返って思うこともある。しかし、この仲間の絆は強く、卒業して六十年近くなっても、鬼籍に入った仲間とは別に、今でも深い交友を続けている。

卒業後、職に就き上京、文学とはほぼ縁のない職場、しかも右も左も判らない東京生活、不満に思う日も多かったが、自分なりに一生懸命に働いた。杉本教授からいかなる職場であろうと文学の目は忘れないでください、との手紙に大きく励まされたもの。学生時代、大学での勉強よりも、小説に読み耽ることが多かった。勿論、会社勤めになっても、これもこれは続いた。年々の芥川賞の作品やその候補作品も欠かさず読んだ。お陰で最先端を行く日本の小説が、どの辺の水準にあるかも理解できたし、それらの作品を批判する力もあると自負していた。しかしそれは何年も続かず、いつの間にか会社人間になってしまい、結婚し家庭を持つと、その傾向に拍車がかかり文学から遠ざかってしまった。その後ひたすら会社人間で過ごして、あつという間に定年。その十か月前から日記を書き出したが、自分の文章の拙さを改めて思い知らされる。

杉本教授からの手紙や、俳句をやっていた父の手紙は簡明瞭であった。余韻のある文章を書きたいとの思いから八千代市の俳句教室で勉強し、俳句の結社に入門。その他色々な機会を捉え俳句と格闘、結社では同人にもなり、先ず先ずの俳句を作られた。人の作品を添削指導するようになったが、文章を書くことと相変わらず、くどくどしたものしか書けず、歯痒さに忸怩たるものがある。昨今、小説を読むのも少なくなり、芥川賞作品を読んでも以前の感動がなくなってしまう。しかし文学への熱い血だけは残っている。

俳句はどの師からも、カメラのシャッターのように一瞬の光景のピンポイントを写生するものと教えられたが、私の俳句は、故郷を離れ六十年近くになるといふのに、未だに郷心が抜け切っていない。寧ろ江州弁を誇りに思うのと同じく、滋賀のことを詠むことに心を注いで、それを自分の特徴と思うことにした。これは俳句にとって邪道かも知れぬが、それはそれで良いと考えている。

しかし彦根のことを念頭に置いて詠んだ句は多くあるのに、これが彦根だと自慢出来る代表句が一つもないのが残念である。俳句を始めてから今までに作った句の中から、自選致しました。職を辞して、東京のベッドタウンの八千代市の人達との付き合いが多くなったが、彦根のことを知らぬ人が多いのに淋しい思いをしている。最近彦根城のことは知らなくても、「彦ちゃん」のことを知っている人が若い人に多いのに驚く。大学も彦根の街も、大きく発展することを切望している。

葉袋の居間に古びて長閑しや  
花の寺書院に古き資本論  
ポシェットの歳時記軽し山笑ふ  
父祖の地に残る田畑母子草  
花筏離反の仲間振り向かず  
レシート膨らむ財布四月馬鹿  
卒業や河口の水面荒びをり  
花菜畑無人駅から無人駅  
草を引き草の命を想ひけり  
草笛や母の音色を出せぬまま  
星涼し眠れば明日が来てしまふ  
切捨てし枝を離れず蝸牛  
一山を搾るが如く滴れり  
望郷の夢を引きずる昼寝覚め



株式会社 金乃台カントリークラブ

支配人 鎌田 和美

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町 3432

TEL 029-872-0182 FAX 029-872-3182

『今年も皆様のご来場をお待ちしております』

速報の震源近し金魚玉

巢立鳥振り向くいとまなかりけり  
比良山系没日飲み込む半夏生

広島忌一条消えぬ飛行雲

紙魚の跡一文字読めぬ父の発句

古代蓮古墳の眠り未だ覚めず

今日の菊妻との刻の緩やかに

秋濁く空家の多き城下町

青山や流離諾う鯛雲

枯れ果てて籬を緩めぬ葛の蔓

佐和山の昔日偲ぶ冬の露

落とし水夕日の湖に急ぎをり

放牧の牛と遊べるばったかな

交響の風と地の声早稲育つ

漣や比叡をまたぐ天の川

縄文の古跡神さぶ良夜かな

豆腐屋のラツパの湿り暮れ早し

母の亡き軒に夕日のつるし柿

浮き沈むこともなりあい鳩

米作辞めて生活の室の花

電子辞書電池切れそな冬の夜半

それぞれの貌に年輪日向ぼこ

来し方の友の顔顔川枯れる

水底に修行僧めく寒の鯉

山間の水音風音梅探る

寒林の鎮もりに人匂ひける

援・シニアローイング、親睦を三本柱として活動しております。

### 《現役応援》

インカレを中心に関東地区での現役が参加するレースの応援と激励会が主な活動です。

レース直前の激励会は、会場近くのお好み焼き屋をほぼ貸切で行うことが恒例になっております。平日の夜ということですが、参加者は毎回十名程度ですが、関東のOBが現役と接する機会としても、貴重な会です。また、現役就職活動支援の一環として関東地区出身者の会員勤務先企業訪問や新人勧誘活動への支援助資供出なども取組んでいます。

### 《シニアローイング》

近年、特に力をいれているのが、シニアボート愛好者を増やすことです。五年ほど前から参加している横浜市民レガッタという三五〇mレースで、二〇一〇年七月の大会で二種目優勝したことで、関東で滋賀大／陵水艇友会の名前が知られるようになりました。この大会を機に二十〜三十代の若手も含めてボート愛好者が増えています。又、全国規模のシニアローイング大会にも、二〇一〇年城崎での大会から、関東からも参加しています。

二〇一二年の戸田大会には関東支部を中心に五十代、六十代で三種目に優勝。二〇一三年の愛知池大会では、関西、中部支部とともに関東からも参加。二〇一四年の館林大会では、関東支部若手クルーで初めてエイトで出漕。又、関西支部が参加していた朝日レガッタ（瀬田で開催）に、二〇一二年第六十五回記念大会での記念イベント、マスターズエイト一〇〇〇m（五十才以上）に関東八名関西一名で編成した陵水艇友会エイトで優勝。朝日新聞の滋賀版に大きく掲載され北居会長の「琵琶湖は呼んでいる」で陵水艇友会のOBにも思い起こさせました。

さらに、二〇一三年より六十代のダブルスカルでイタリアでの世界マスターズへ出漕。RYOSUIは世界にデビューし、「力漕」Tシャツが現地で大変な人気だったそうです。この他に名古屋大学OB對抗戦、横浜ボートマラソン（七kmのタイムレース）などにも参加し好成績を収めています。

### 《親睦》

月例会、年一回の支部総会を中心に活動していますが、「陵水ボートの九十年を語り飲む会（二〇一三、四、十三 大学一

回前田名誉会長を囲んで十四名参加）」「世界マスターズ壮行会（二〇一三、八、二四 三先輩の参加壮行をインカレ遠征中の現役二十三名を含め総勢三十六名で開催）」、ゴルフ大会（年一回）等親睦・情報・意見交換を行っております。

### 《現役の活動》

長年、関西ではトップクラスの実力を誇っていた漕艇部も、五年ほど前に部員の減少からエイトも組めない危機的状況となりましたが、OB・現役一体となった部員勧誘活動を展開し、現在男女合わせ六十名を超える所帯となり、実力も関西トップに近づいています。九十周年を迎え、早朝に関西で優勝し五年後の男子エイトインカレ優勝を新たな目標としております。



90年を語り飲む

米財団法人ジャパンエキスポ・ファンデーションの主催にて、二〇一五年九月五日（土）六日（日）、グラミー賞授賞会場の名門展示場でもあるロサンゼルス・コンベンションセンターで「JAPAN EXPO 二〇一五」を開催致します。

この度、この大きなイベントを全面的に支援するべく、日本サイドで「一般社団法人ジャパンエキスポ」を、四人のメンバー（理事）で立ち上げ、大26回卒の私上林好一（かんばやしよしかず）も、四人の理事の一人として加わることになりました。

東日本大震災復興、二〇二〇年東京オリンピック開催記念として、JAPAN EXPOの三十周年記念開催として銘打ち、日本のおもてなしを「衣」「食」「住」「遊」に反映する事を狙っ

## JAPAN EXPO 2015 (30th Anniversary)

### ロサンゼルス開催のお知らせ

～O・MO・TE・NA・SHIを  
日本からアメリカへ  
おもてなしの心を、今～

ております。

「おもてなし」の心を世界の価値へ

日本には多くの魅力があるに

拘らず、その魅力をまだまだ十分に世界に届けられていないと言われています。そこで、日本の伝統芸術・文化・技術から最先端のテクノロジーまで、「日本」の良さを正しく理解いただくため、ロサンゼルスの本拠を置く米国財団法人ジャパンエキスポ・ファンデーションが事業主体となつて、一九八〇年代よりJAPAN EXPO（ジャパンエキスポ）を開催して参りました。

今回は、世界で評価されている「おもてなしの心」の紹介をメインに据え、グローバルな時代に生きる日本人としての誇り、継承された伝統技、日本ならではの洗練された「衣食住（ライフスタイル）」を世界的名門会場から世界に広げたいと思っております。（二日間での来場者数、五万人を見込んでいます。）海外進出のスタートの一步として、是非陵水会の皆様の会社や所属団体等で、この歴史・実績のあるJAPAN EXPOをご活用戴きましたら幸いです。

日本の「衣」「食」「住」「遊」をアピール

二百五十五ブース・三ステージ（予定）を設置し、以下のゾーンに分けて展示します。

■「衣」ゾーン  
ファッション&グッズのゾーンです。日本発のファッション、グッズ、コスプレからなどの「かわいい」から、着物に代表される日本伝統の「和」の装いまでを紹介するゾーンです。

■「食」ゾーン  
ユネスコの無形文化遺産「和食」のゾーンです。和の食材・果物・海産物などを使った寿司、そば、うどん、おにぎりなど日本伝統のファストフードから、インスタント食品、和食とマッチする日本酒、焼酎、ウイスキー、ビールなど日本の「おもてなし」の味が堪能できるゾーンです。日本食フードコートを設け、実際に召し上がって戴きます。

■「住」ゾーン  
日本独自の「おもてなし」と言う快適、心地よさを実感して頂きます。エコにつながる竹や紙を使った道具や日本の伝統、そして最新の道具を実感して戴きます。

■「遊」ゾーン  
日本の漫画、アニメ、ゲーム、

趣味などコンテンツの質・量ともに世界を席巻する日本の「遊」。最新のサブカルチャーに触れて頂きながら、その根源にある伝統と歴史に裏打ちされた日本ならではの遊びの文化に触れて戴くゾーンです。

出展者様への支援  
JAPAN EXPOの三十年の実績から、海外進出、取引先企業のマッチングを致します。また、渡航から出展に際し発生する費用の二分の一を支援する助成金のご紹介、渡航におけるツアー手配等、出展者様に安心して出展頂けるようサポート致します。

お問合せ・お申込みはこちら  
日本事務局「一般社団法人ジャパンエキスポ」  
東京都港区新橋五丁目七番一号  
久松ビル三〇一号  
TEL 〇三六七〇六四一八四  
FAX 〇三六四五〇一八二六  
HP <http://www.japanexpo.usa.jp>  
E-mail [info@japanexpo.usa.jp](mailto:info@japanexpo.usa.jp)

東京陵水ゴルフ会開催の内容  
開催時期：年四回、(四月上旬・六月中旬・九月下旬・十二月上旬に開催)  
(1) 開催場所：金乃台カントリークラブ(カートなし)  
(2) 順位決定：同ネットの場合、高年齢者↓ローハンドの順とする  
(3) ハンディキャップ：十回ごとにハンデ改定を実施、上限四十、八十歳以上+六、七十歳以上+三とする。

# ゴルフ談義



この一年間も金乃台カントリークラブで、好天の下、熱戦が繰り広げられました。各回の戦績・優勝者はじめ飛賞も含めた賞金獲得者名は下記の通りです。  
★第一〇〇回記念大会並びに記念パーティーを二〇一五年四月十四日に開催致します!!  
ドラ短：島山・宮武  
ニアピン：小口2・富田・小梶・奥村・金井・岡本・鶴見  
第九十五回大会(大十回佐藤秀孝選手九年ぶり二回目の優勝)  
平成二十五年十二月九日(月)  
八組 三十一名  
第九十六回大会(大十回島山選手待望の初優勝)  
平成二十六年四月三日(木)  
八組 二十九名

お問い合わせ・お申込みはこちら

日本事務局「一般社団法人

東京陵水ゴルフ会開催の内容

開催時期：年四回、(四月上旬・六月中旬・九月下旬・十二月上旬に開催)

第九十五回大会(大十回佐藤秀孝選手九年ぶり二回目の優勝)

平成二十六年

# 陵水散步会

●一月二十七日(月)

平成二十六年囲碁大会の実績を以下の通りご報告します。

●平成二十六年六月二十一日

全国情報サービス産業厚生年金基金会館にて開催。十一名参加。

「東京大仏と荒川堰堤」コース  
光が丘駅→光が丘公園→赤塚植物園→東京大仏→板橋区立美術館→笹目橋→荒川堰堤→浮間公園→埼京線浮間船渡駅

東京に大仏様とは、しらない人も多い。芽吹き未だしの植物園を抜けて、広々とした荒川堰堤を早春の陽射しを浴びて、温もりの中を気持ちよく歩く。参加者九人。

●三月三日(月)

「羽根木梅園と彦根藩、松陰」コース  
明大前駅→羽根木公園→豪徳寺→世田谷代官屋敷→松陰神社→最勝寺→茶沢通り→下北沢駅

万延元年三月三日は井伊直弼の命日。墓石で今日の因縁を思う。

●四月四日(金)

「国立の桜と土方歳三」コース  
国立駅→学園通り桜並木→一橋

井伊家の世田谷領地管理の代官屋敷跡。思想の敵の吉田松陰は維新の元勳に守られ近くに眠る。参加者六人。

## 東京陵水会囲碁会便り



### 成績

### 準優勝

### 準優勝

優勝…島山 義生(大10) 74(20)  
準優勝…小口 晃(大14) 74(20)

三位…吉田 憲夫(大17) 70(13)  
四位…柴田 久典(大13) 71(23)

三位…奥村 勇夫(大15) 79(29)  
四位…北澤勝太郎(短5) 80(14)

三位…山本 孝之(大9) 77(24)  
四位…田川 行雄(大9) 77(9)

五位…鶴見 芳令(大15) 72(25)  
六位…島山 義生(大10) 76(14)

五位…島山 義生(大10) 80(14)  
六位…中尾 克也(大15) 80(21)

五位…中西 三一(大5) 78(20)  
六位…名口 幸夫(大14) 78(7)

七位…西坂 徹雄(大9) 77(21)  
八位…平本 義則(大16) 82(4)

七位…小梶 清司(大18) 81(14)  
八位…山本 保(大15) 84(20)

十位…平井 俊雄(大12) 80(19)  
十一位…田村 寿夫(大12) 86(22)

十二位…中西 三一(大5) 85(20)  
十三位…山本 保(大15) 89(20)

十五位…木戸 彪(大16) 85(31)  
十六位…守屋 貞夫(大12) 98(21)

二十位…田中 俊男(大10) 87(28)  
二十一位…中尾克也(大15) 97(21)

二十位…金井(大14) 83  
二十一位…丸居・平本

十八位…山本保・平本  
十九位…金井(大4) 87

BB賞…山本 保(大15) 99(20)  
ベスグロ…名口(大14) 85

ドラ短…佐藤・平居  
ドラコン…丸居・平本

ベスグロ…金井(大4) 87  
ドラコン…山本保・平本

ドラ短…北澤・山本孝之  
ニアピン…島山・金井・高居

ドラ短…井口・柴田・古山・中村嘉・田口  
ニアピン…井口・田川・中尾・小梶・平本

ドラ短…島山・若山  
ニアピン…井口・田川・中尾・小梶・平本

第九十七回大会(若手大二十三  
回田口選手初優勝)

第九十八回大会(本二十一回井  
口選手!最年長優勝記録更新  
六回目的優勝)

【新規参加希望の皆様へ、  
新規会員大歓迎!】  
氏名・住所・☎番号・生年月  
日・卒業回・所属ゼミ・部活・  
ハンディキャップを下記メール  
アドレスにご連絡下さい。Xの  
次にアンダーバーがあります。  
山本保 yatax\_888@icnet.ne.jp

平成二十六年六月十一日(水)  
七組 二十五名

平成二十四年九月九日(火)  
七組 二十七名

日・卒業回・所属ゼミ・部活・  
ハンディキャップを下記メール  
アドレスにご連絡下さい。Xの  
次にアンダーバーがあります。  
山本保 yatax\_888@icnet.ne.jp

成績  
優勝…田口 良三(大23) 66(22)

成績  
優勝…井口 博民(本21) 74(32)  
88才8ヶ月

戦績Bグループ  
優勝 新宮 毅 四段(大2)  
準優勝 用田 政一 三段(大3)  
三位 坂田 忠彦 初段(大9)

優勝…島山 義生(大10) 74(20)  
準優勝…小口 晃(大14) 74(20)

三位…奥村 勇夫(大15) 79(29)  
四位…北澤勝太郎(短5) 80(14)

戦績Aグループ  
優勝 鈴木 克治 八段(大14)  
準優勝 神崎 栄次 五段(大3)  
三位 森本 忠徳 五段(大9)

成績  
優勝…田口 良三(大23) 66(22)

成績  
優勝…井口 博民(本21) 74(32)  
88才8ヶ月

戦績Bグループ  
優勝 新宮 毅 四段(大2)  
準優勝 用田 政一 三段(大3)  
三位 坂田 忠彦 初段(大9)

戦績Aグループ  
優勝 鈴木 克治 八段(大14)  
準優勝 神崎 栄次 五段(大3)  
三位 森本 忠徳 五段(大9)

戦績Bグループ  
優勝 新宮 毅 四段(大2)  
準優勝 用田 政一 三段(大3)  
三位 坂田 忠彦 初段(大9)

大学く谷保天神く石田寺く日野陣屋跡く大昌寺く八坂神社く宝泉寺く中央線日野駅

学園通りの見事な桜並木に春の喜びを感じる。石田寺の墓石は土方姓ばかり。周囲の街も似たようなもの。日野陣屋は戸を締めつつあったが管理人の親切さに甘えて入館。参加者七人。

●五月二十七日(火)

「さきたま古墳公園と忍城」コース  
高崎線北鴻巣駅く円福寺くさきたま緑道く彫刻の道くさきたま古墳公園く水城公園く忍城跡く高崎線行田駅

東京から他県遠征したのは久しぶり。初夏の田園の緑道を楽しみながら、頂きの高い円墳と八つの前方後円墳がまとまって目にする事のできる古墳公園に着く。中でも稲荷山古墳から出土の金文字象嵌の太刀はレプリカであったが素晴らしい。園内の博物館に詳細な古墳の説明や出土品が太刀と共に置かれていた。ここから行田の街をウォークして忍城跡に行く。水城公園とは城の広大な堀の後を池にしたもの。城見物の物知りおじさんが行田駅へ出るバスを教えてください。参加者七人。

●六月二十七日(金)

「東京北区を歩く」コース

田端駅く田端高台通りく旧古河邸庭園く平塚神社くゲート記念館く飛鳥山洪沢邸跡・洪沢資料館：雨で予定短縮

品種の多い花が次々と咲く美しい古河邸庭園のバラ。ゲート館はゲート一筋の堅さを持っている。「詩と真実」が懐かしい。洪沢栄一の圧倒的な大きさが僅かな資料でも理解できる。

館外は雨が激しい。今日はここまで。参加者五人。

●十一月二十五く二十六日

「信州の鎌倉・塩田平」コース

上田駅く上田城く別所温泉駅く常楽寺く別所神社く安楽寺く北向観音く温泉宿(齋藤旅館)中禅寺く塩野神社く龍光院く塩田城址く前山寺く無言館く塩田町駅く上田駅

一泊散歩会は数年振り。その日前日までの好天がこの二日に限って細かい冷たい雨が降っては止みに見舞われた。紅葉ただ中のこの地方、晴れていれぱと思うが濡れて折り重なったわくから葉の、その香りに魅かれて山道を歩くのもいいものだ。城には人が少なく、文化財を保有する寺々の上品なただずまいも気

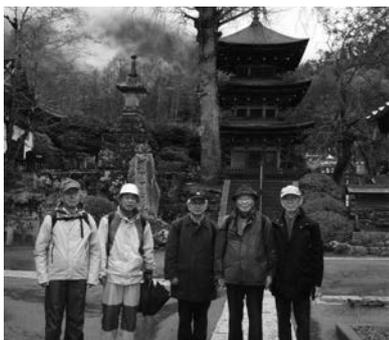
にいった。宿は主人が「温泉がいいと泊客が言う」と自慢するほどのもの。折り重なる紅葉の林の中にひっそりとコンクリートむき出しの、収納された絵画たちの悲しみを秘めて無言館があった。無言館からひたひたと小雨の中、稲刈りが終わって株だけが残った田園風景に目をやりながら別所線の小さな駅をめざした。参加者六人。

七月は雨、八月は夏休み、九月、十月はそれぞれの都合があった。いつも楽しく、珍しい所にも出かけます。是非ご参加して見て下さい。

さきにメールを頂ければ、開催日、コースをご案内いたします。

hysckys@nifty.com

林 史欣(大8) 記



塩田平前山寺

エレベーター等、輸送機械の営業、設計、製造、据付  
保守サービス、モダンゼーションに関する全業務



# 守谷エレベーター

ISO9001 認証取得

## 守谷輸送機工業株式会社

代表取締役社長 守谷 貞夫(大12回)  
田村 寿夫(大12回)

本社・第一工場 〒236-0004 横浜市金沢区福浦1-14-9 TEL(045)785-3111 FAX(045)780-1881  
営業本部 〒220-0004 横浜市西区北幸2-9-40 銀洋ビル4階 TEL(045)322-3111 FAX(045)322-9486  
東京支店 〒104-0032 東京都中央区八丁堀1-6-1 協栄ビル7F TEL(03)5542-2700 FAX(03)3297-7400

大阪支店 福岡支店 宇都宮工場 名古屋出張所 札幌出張所

# 詩吟同好会

「詩吟を楽しんだ後、皆でビールでのどを潤しながらの食事は最高だね」西野宏(大7)さんは楽しそうに話し掛けて来た。「自分は、カラオケは時々行くのだが、詩吟は今までやった事が無かった。でもいいねえ、思っきり声を出して体中がすっきりするよ。親戚の叔父さんが詩吟をやっていて、その印象は小さい頃から持っていたんだ。」

新宿駅前の教室には二年前八名からスタートして、今は十三名、鈴木重成(大7)先輩の指導で月三回の詩吟研修も毎回大盛況である。教室では浦谷政夫(大7)先輩がお世話をして頂き、滋賀大学がそのまま移動して来たようである。

全員の詩吟吟力は確実に向上し、来春には都大会に出場するまでに努力して来た。大学で詩吟部に在籍された柴田豊彦(大16)さんの吟にしびれながら、新人は新人ながら大声をあげて迫って行く。青春ここにあり。

宮野幸雄(大12)記

## 東京五陵会 渋温泉一泊の旅

秋の五陵会は、例年どおり温

泉一泊旅行を実施した。温泉一泊旅行は平成十四年に始まって平成二十二年までは、山を歩いて温泉に一泊する旅だったが、メンバーの「もう山歩きは無しにしよう」との強い意見で、その後は観光と温泉の旅になっている。

今年長野県北部に位置し、古い温泉街の風情が残っている渋温泉に一泊し、善光寺を参拝する旅にした。

十月三十日、長野駅十二時五十分着の長野新幹線「あさま五一九号」で旅は始まった。昼食は各自駅弁を車内で済ますことにした。旅の情緒を楽しみ時間の節約になる。下車後十三時に宿差し回しのマイクロスバスに乗車、途中中山晋平記念館(懐かしい聞き慣れたメロディーが流れていた。)に立ち寄ってもらい、

目的の渋温泉に向かった。約一時間の田舎道を走るバスの旅は川中島の古戦場で有名な千曲川を渡り、沿道は枝一杯に赤く色付きタワワに実ったリンゴ畑の続く風景が印象的だった。

宿「さかえや」に着くと部屋割の後、早速に有志は旅館の下駄に履き替えて、石畳の温泉街をカラコロンと音を立てながら散策したり、温泉街八か所に

点在する外湯に宿から借りた鍵で、文字通り源泉かけ流しの温泉小屋をハシゴしたりして楽しんだ。夕食は例年通り賑やかな大宴会(後日、当夜と翌朝給仕してくれた仲居から礼状が届いた。初めてである)、夕食後は幹事部屋に集まって、健康問題が話題にしないことにして(でないと、病氣と薬の自慢話?に花が咲いてしまう)、天下、国家に談論風発、夜も更けて各自の部屋に散らばって行く。この時間が大きな楽しみの一つになっている。

翌三十一日は、朝食後温泉街の細い裏道を散策、温泉神社などに参拝した後、再び宿のマイクロスバスで善光寺へ向かった。



境内はいつ行っても参拝者で賑わっている。紅葉が見頃になっていて、各自自由に参拝することにした。参拝後昼食は近くのそば屋で信州そばを堪能し、シャトルバスで長野駅に出て散会した。

出席者は、石橋・市木・岡田・中川・中西・樋上・久木・細井・龍口に、大阪から近藤が参加してくれて計十名だった。常連だった青島が九月に他界。天田・間宮が体調不良で不参加だったのは、寂しく残念だった。

龍口秀夫(大5)記

## 大学十八回 (昭和四十五年卒) 同期会開催

大学十八回同期会を四月十三日「彦根ビューホテル」にて開催しました。彦根在住の同期五名が実行委員になり、全国各地にいる同期生に声をかけ卒業して初めて全体の同期会になりました。

桜満開の彦根に同期七十二名が集まりました。四十四年ぶりに顔を合わす友に握手あり、ハグあり、それぞれの再会に感激しました。全員で集合写真を撮っ

た後、十名の物故者に対し黙祷しました。一人一分宛の近況報告スピーチに聞き入りました。東京支部からは十八名が参加しました(参加者は後記)。

当日夜の彦根の酒場では、いくつかのグループが四十四年前の彦根の話で盛り上がったようです。翌日は十三名のゴルフ愛好者が、彦根カントリークラブでゴルフコンペを開き、前日に引き続き友好を深めました。次回全体の同期会の開催を皆で盛り上げようと決めたことと各地各支部での陵水会、同期会に積極的に参加しようと決めた事で同期会は閉会しました。四十四年の時間経過の重みを感じさせられる同期会でした。

東京支部での同期会にとどまらず、他の支部に呼び掛けて全体の同期会開催をやれないかとの意見が実現した同期会でした。彦根での全体同期会参加者は以下のとおり(敬称略)。

- 市岡隆治 今津松雄 岡田憲治
- 影山哲也 岸田雅雄 北居和夫
- 栗原喜代次 小梶清司 澤田勉
- 新戸基次 杉野好宥 田中和男
- 谷口直樹 徳山秀雄 中村嘉秀
- 永田(佐野)央 西川清吾
- 前野悦夫

中村嘉秀(大18)記

## 有田ゼミ総会

故・有田正三教授のゼミの総会「有田会」は、毎年一泊二日の日程で開催しています。五十三年目の今年は、先生の生誕百年記念の会として、先生ご夫妻のお墓参りも兼ねて、平成二十六年十一月十五日〜十六日に京都市のホテルピノ京都堀川で開催し二十八名が参加しました。「有田先生を語る」と題したパネルトークで先生と公私にわたり関わりが深かった四名のゼミ生が、先生の思い出やエピソードを報告し、皆で語り合いました。

学生時代のことや近況などを語り合いました。

翌日は青空のもと清水寺近くにある大谷本廟の先生ご夫妻の墓参りをした後、智積院で国宝の長谷川等伯の障壁画と日本庭園を見物し、昼食で京料理を共にしました。二日間とも天候に恵まれ楽しい会となりました。次回は平成二十七年十月二十四日〜二十五日に犬山市で開催することにして解散しました。

西田廣彦（大9）記

## 東京陵水会計人会

### 新年会の開催

東京陵水会計人会新年会を平成二十六年一月七日、神楽坂「パ



2014.11.15



ラドール・ドウ・カグラ」にて開催しました。今年の新年会は初参加二名を加え過去最高の十名が集まりました。

参加者は、星出潔（大13）岡田憲治（大18）長井和夫（大22）御旅屋尚文（大24）深田睦子（大26）上田信子（大29）久野康成（大37）松澤進（大38）北尾聡子（大45）木村繁（大46）笠浪真（大48）の皆様です。

世界を駆け巡る久野さんから近著「新卒から海外で働こう！」がメンバーに贈呈されました。これまでも久野さん長井さんから、著書を頂いています。御旅屋さんの著書も多数あります。

参加者から近況報告と共に貴重な話が聞け、今年も楽しく美味い充実した新年会でした。

## 恒例の陵水新聞OB会

### 京橋で開く

隔年ごとに彦根と東京で開いている滋賀大経済学部陵水新聞会の現役とOBとの会合を、今年も東京・京橋の日本料理「婆娑羅」で持った。

陵水新聞は発刊されたのが昭和十二年であると聞くから、かれこれ八十年の歴史を持つことになる。



この会が設けられてから既に三十年あまりが経過したが、彦根の現役新聞会員が、毎年、会場をセッティングしてくれる。ネットでの会場設定であると聞くから、我々の過去とは、まさに隔世の感がある。

今年の参加者は現役全員の八名と、OB四名であった。例年OBは十名程度出席するが、今年OBの日程がうまくマッチせず、残念ながら少人数であった。しかし、OBの門野久義氏（大8）が滋賀県大津市から、会計事務所勤務の川上真司氏（大58）が大坂から参加してくれたのには、現役の励みになったようだ。

現役四回生の編集長篠島文子

さんから、最近の彦根での編集・発行状況の説明などを受け、また出席の会員から編集にあたっての取り組みや抱負を語ってもらった。さすが陵水新聞会のメンバーであるだけに、それぞれ自己の意見を持ち、新聞編集に持ち味を発揮していくてくれた。ただ、現三回生の会員が在籍して、陵水新聞健在の思いがした。

た、現三回生の会員が在籍して、陵水新聞健在の思いがした。た、現三回生の会員が在籍して、陵水新聞健在の思いがした。た、現三回生の会員が在籍して、陵水新聞健在の思いがした。

また現編集長を含め、二名の女性が活躍してしてくれるのも心強い限りである。我々の世代には考えられなかったことであり、さすがアベノミクスの時代であるかも。

OBからは大7の当時の編集長・鈴木重成氏が出席し、孫子のような現役生にアドバイスしてくれていたのは微笑ましい光景であった。

来年は、彦根で当会を持つことを約して散会したが、現役がOBになり新入会員が加わることに、当会の永続性を期待した次第である。

浦谷政夫（大7）記

年会費・併せて寄付金をお振り込みいただきありがとうございます。  
平成二十六年年度年会費納入者

（十一月末現在）

吉林登喜雄（本13）、山口武美（本17）、石田定夫、小笠原滋、高木克幸（本19）、葛上宗一郎（本20）、井口博民、犬塚昌一、梅沢誠實、河添治男、竹内政太郎、豊田弘毅、中辻喜蔵（本21）、寺本康郎、橋本 侃、箕浦正、山口昭夫（本22）、永木俊一、前川彌之祐、松本 義（本23）、岡田浩、加納淳司、相馬忠男、高木早苗、西澤 正、保正 保、矢田佳三（本24）、落合忠一（別11）、井上祐一、川本 茂、前田偉量、渡辺貞二（大1）、乾 哲彦、岡田 巖、柴田茂夫、新宮 毅、水引芳雄（大2）、神谷 誠、清水善和、中川弥次、増田茂樹、村井永治（大3）、青山松太郎、今井常清、柏測健三、北川 享、酒井郁郎、佐々次郎、竹内鋭二、谷 文夫、寺田又三、箸方海三、樋上不二子、松井 茂、松岡正曜、安江郁夫、山中英一（大4）、青島 弘、天田志郎、飯島 勲、井上明郎、岡田和義、神谷 亨、龍口秀夫、竹内伴道、田中修二、中川郁三、中西三一、樋上泰功、細井恭一、三井正勝（大5）、青木 滋、今宿隆弘、白井 靖、大久保義雄、大谷毅丈夫、岡田 亨、河合正紀、川村和男、草生知治、小林 仁実、齋藤高康、高橋秀治、田中実、中村博一、橋本長夫、林謙治郎、久木義雄、藤原多喜雄、三宅義男（大6）、磯部一郎、宇治原嘉政、宇野 進、浦谷政夫、木下 実、佐野了、鈴木重成、富永義孝、西野 宏、東野和弘（大7）、池田辰彦、池田弘孝、大島明美、小塩正長、尾本政二、小森清美、瀧川雅一、刀裨館信雄、並川 淳、西村 信、浜崎守三、林史欣、松浦幸作、松岡健雄、安田一

雄（大8）、日下部百也、田川行雄、中川和己、中島勝司、西坂徹雄、西田広彦、乗富俊二、平瀬武明、藤江忠正、藤本裕一郎、森本忠徳、山本孝之、吉田 弘（大9）、石垣 康井上善隆、白井 健、宇野宏紀、小西捷治、佐藤秀孝、田中俊男、坪田清六、中川寿一、中沢龍彦、中村孝男、山田義生、服部全孝、細谷 孝三、井照次、山田 進、山本啓司（大10）、天野正保、各務 健、川合久嗣、関 恵文、野一色公平、長谷村秀夫、法橋正虎、松浦紀久雄、松本隆一（大11）、稲邑明也、坂口松太郎、守谷貞夫、田村寿夫、平居俊雄、堀内和、堀川幸夫、宮野幸雄（大12）、朝比奈冬男、池田喜十良、小谷兼夫、小林三郎、近藤達也、中村奎吾、納堂秀樹、星出 潔、村井邦彦、吉田久典、若山 忠（大13）、天木國男、石田昭郎、白井和宣、小口 晃、加藤博善、北村 徹、古山捷二郎、高橋勝彦、土井健一郎、中村 弘名、口幸夫、野村英樹、羽淵展世、古川浩司、丸居 裕（大14）、鶴山祥夫、海野広司、海老 洋、大澤義隆、奥勝 野雄、木下英男、黒田悦司、鈴木勝、柗野茂樹、鶴見芳令、寺田芳雄、富田博司、藤井駿治、細江讓夫、前田哲頭、山本 保、吉田勇夫（大15）、尾関一平、木津勝治、木戸 彪、佐藤充宏、嶋多 優、寺沢 優、濱口栄治、渡辺雅利（大16）、池谷吉人、大原和夫、岡本和之、川崎憲夫、蔵田昭憲、栗林 昭、滋野輝彦、柴原良昭、栢 治三、豊田徳司、中根節孝、並河日出夫、西尾郁夫、山本節夫（大17）、市岡隆治、岡田憲治、兼松泰男、北居和夫、小倉好博、景山哲也、栗原喜代次、小梶清司、田中 和夫、千葉 茂、徳山秀雄、中村嘉秀、西川清悟、林 良孚、村瀬尚文（大18）、伊藤博邦、稲野辺敬義、井上博之、岡 廣司、小野孝史、門平孝二郎、小山久照、坂野友之、竹森二郎、田辺 徹、寺井与利雄、土井 利明、永田 修、西澤弘行、西村穂積、浜 筆治、平田雅章、宮川 誠、村上 等、山崎竹夫、和田博之（大19）、岩谷克敏、上田 求、植田兼司、大八木勉、河原正喜、蔵 彰、竹本進一、田中二郎、農守義文、角田健一、浜野信裕、平井善三、松山 仁、持田晴夫（大20）、石川文雄、植野克喜、今井良治、塩瀬和成、藤野義男、美 粕測伸夫、瀬田和成、藤野義男、米山 修、山下修司、吉田富美男、脇坂 守（大21）、北野敏彦、小林忠志、長井和男、能島伸夫、山代真佐行、山田 忠、山脇一泰（大22）、青木市次郎、稲波信一、大矢 武史、公文信太郎、品川悦夫、棚橋 稔、玉置辰司、中岡浩三、野村勝良、平本義則、深谷靖純、堀内 裕、堀江慎一、松井善嗣、松田治久、若林寛（大23）、大山 明、奥村淳一、河江泰平、斎藤裕士、田中恒男、徳山均、浜保晃夫、本田吉弘、松永美弘、山崎 勉、湧川勝巳（大24）、石黒俊一郎、岡本幸博、香山 隆、鴨川忠彦、川久保勉、楠田芳弘、田村弘昭、中尾佳史、永田雅則、福田康夫、安井喜重、山本哲治（大25）、池本莊司、大北 亨、大村雅文、上林好一、北野義隆、長 誠次、京極政好、近森彦義、重田 博、高瀬 豊、高橋達之、高見政史、田中照己、永田玲子、夏目忠彦、畑澤敏之、前川利彦、松下浩一郎（大26）、足立浩次、岩崎博之、木戸博文、小松利央、柏木 勝、川嵩信二、神田憲樹、土田秀仁、溝口信悟（大27）、大野光宏、奥田慶一、加瀬秀樹、桑島英彰、西川元啓、古川慎一、間坂裕彦、宮崎吉史、森 徹（大28）、浅見 徹、飯塚裕彦、大下雅司、緒方俊輔、小辻真一、酒井嘉登、坂根 徹、坂野友之、中野達也、村上昌也、吉本準一（大29）、浅野卓矢、磯野和也、大江康浩、武田吉史、野村孝次郎、船橋伸夫、吉田繁喜、和田昌信（大30）、岩田雄一、酒井康就、田邨弘樹、中井光治、斜

木信彦（大32）、今田 淳、清塚 徳西野忠宏（大33）、岡武俊雄、加藤篤、島津泰幸（大34）、清水範之、能登英彦、林 雄彦（大35）、西村龍哉（大36）、久野康成、鈴木伸彦、永瀬敦彦（大37）、大原孝明、小川 伸岸野正史、北川昌樹、松澤 進、溝淵裕久（大38）、加代雅道、原 弘、蒔田英一郎（大39）、立木賢一、西山晴雄、山本真嗣（大40）、畑瀬英樹（大41）、山平優子（大42）、足立 亮、福坂淳敏（大44）、牛嶋宏也（大45）、菅真里子、本田浩一（大46）、弥田有三、山本理恵（大48）、鈴木 裕、長谷部祐一朗、湯浅信介（大50）、秋山直登、岸 達也、平 大輔、森本慎一郎（大51）、松江直斗（大53）、戸田友香（大55）、石田直斗、中里智孝、平友友枝、松田慎祐（大57）、秋山久米広知、中村早織、濱田英嗣（大58）、片岡和也（大59）、中村摩利那（大61）、清水俊彦（短4）、北澤勝太郎（短5）、傘木良三、堀口 發（短6）、日高信次（短9）、深瀬佳洋（短11）、森山哲臣（短41）

●寄付金提供者（卒年次略）  
前田偉量・中西三一・川北直行・西村穂積・公文信太郎・徳山均・岩崎博之・中野達也・武田吉史

※本紙一〇一号（平成26年1月号）の納入者名簿に洩れ、誤りがありました。お詫びし訂正いたします。（事務局）  
敬称は略させていただきます。（事務局）  
①お名前が漏れていた方…三木健蔵（本18）・竹内鋭二（大4）・西村信（本19）・森紀正（大18）・上林好一（大19）  
②お名前に誤りがあった方、「」内が誤り…天「大」野正保（大11）・喜田「峰」幸（大18）・上田文雄「男」（大21）  
寄付金の欄…射「的」場茂喜

## 編集室

発行時期が押し迫ってくると慌てて原稿の整備をするのは毎号編集期の変わらない姿である。当初二十ページで紙面を抑えようとしたが、結局二十四ページとなり、掲載を見込んでいた記事を割愛することになった。母校への提言、他大学同窓会インタビュ、彦根コンフィデンスなど。

しかし読みごたえのある総会記念講演や、「こんにちは」などは若干の縮小を試みながら、しっかりと掲載することに勤めた。気がかりな「大学」の行く末を伊豫谷先生は論じておられる。

「俳句」と「川柳」は趣味の豊かさが伝わってくる。学生時代の想いをそのままにOBの動きを「クラブOB会東京発信」として提供して貰った。一ページには画をよくする編集部員の知人に母校を描いて頂いた。

「税」の値上げで年度が明け、結果が予想されて投票率が戦後最低になった選挙で年が暮れ、先々不安と狂騒を感じさせる。

(H)

ITシステム性能管理のエキスパート

# 株式会社 アイ・アイ・エム



性能管理ソフトウェア「ES/1 NEOシリーズ」と専門SEの手厚いサポートにより  
「システムの安定運用」と「コスト削減」のお手伝いをいたします

代表取締役社長	小野 孝史(大19回)
営業本部東日本営業部 部長代理	森山 哲臣(大44回)
営業本部東日本営業部 マネージャ	田村 峰子(大51回)
営業本部東日本営業部	中村 早織(大58回)
営業本部東日本営業部	樽井 彩花(大61回)

特長

1. 豊富な導入実績
2. 創立から27年、競合製品なし
3. 安心な自社開発、国産製品

性能管理の理想をカタチに、  
理想を実現する会社

URL <http://www.iim.co.jp>

本社	〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-20 本郷センタービル	TEL:03-5684-6771(代)	FAX:03-5684-684
大阪支店	〒531-0072 大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館	TEL:06-6359-5750(代)	FAX:06-6359-5751
中部営業所	〒460-0008 名古屋市中区栄2-2-17 名古屋情報センタービル	TEL:052-220-2977(代)	FAX:052-220-2978

駐車場の総合コンサルティング

## 日本駐車場開発株式会社

(東証一部上場 証券コード2353)

東京都千代田区丸の内1丁目5番1号 新丸ノ内ビルディング

〒100-6510 電話 03-3218-1900

取締役副社長 川村 憲 司 (大37回)

東京・築地市場近くの本格串あげとワインのお店

## 串あげ 花村

〒104-0045 東京都中央区築地 2-14-1 新井ビル 1F 電話 03-3545-8765

オーナー 川村憲司 (大37回)

発行所  
〒236-0004  
横浜市金沢区福浦1-14-9  
守谷輸送機工業(株)  
陵水会東京支部 支部長 守谷貞夫  
電話045(785) 3716  
印刷所  
〒110-0015  
東京都台東区東上野1-28-3  
船舶印刷(株)  
電話03(3831) 4181

林 史欣(大8回)  
〒164-0014  
中野区南台2-15-10  
(TEL・FAXとも)  
03(3381) 4431  
※編集室のメールアドレスは  
hysckys@nifty.com  
(次号分メ切日十月末日)

「会報」原稿・情報「送付先

